「報恩米（ほうおんまい）」

「米は油の如く命は燈の如し
法華経は燈の如く行者は油の如し」

日蓮聖人が身延で御年五十八歳の時、熱心な信者が当時大変に貴重であった焼き米を亡き父の供養の為、布施をされた事に対して、ご返事の法施をもって報いられました。

お米は、人の命を支えている大切なものです。あたかも米は油のようなもので、命は燈のようであり、法華経は燈で、法華経を信じ唱える信者は油であると日蓮聖人は言われています。

日蓮聖人は身延にご供養された焼き米を、遠路参詣された信者さんに、少量の粥としてもてなされたと言われます。

この「報恩米」は、新米としてお檀家の方よりお供え頂き、日々多くの信者さんがお題目を唱えられた感謝のお米です。

歳の瀬に炊いて頂き、一年間家族を守って頂いたご本佛、ご先祖様に報恩感謝の気持ちでお仏壇にお供えください。